

扇久保博正さん



RIZIN フライ級制覇



大会屈指の名試合
久慈市出身の格闘家、扇久保博正さんが、令和7年12月31日にさいたまスーパーアリーナで開催されたRIZINフライ級決勝で見事優勝を果たしました。フライ級トーナメントには、8人の選手が参戦。扇久保さんは出場選手の中で最年長でしたが、7月27日の1回戦でホセ・トーレス選手、9月28日の2回戦でアリベク・ガジヤマトフ選手を判定で破り、大みそかの決勝戦に駒を進めました。扇久保さんは「岩手県久慈市出身」のコールでリン

グに登場。決勝の対戦相手は、同じくベテランの元谷友貴選手。お互いに譲らず試合が進むと、最後の第3ラウンドは撃ち合う形になり、会場のボルテージは最高潮に。試合終了のゴングが鳴ると、肩を抱き合いお互いの健闘をたたえあい、会場からは大歓声が沸き起こりました。判定3対0で扇久保選手が悲願の優勝を果たし、ベルトと賞金2千万円を手に入れました。扇久保さんの一戦は、大みそかに行われた対戦の中で、ベストバウトとの声も多く、約4万3千人の観衆を盛り上げました。

■扇久保博正さん(38)プロフィール

- ・久慈市中央出身、千葉県在住
- ・THE BLACKBELT JAPAN 所属
- ・VTJフライ級トーナメント 優勝
- ・第6代修斗フライ級 世界王座
- ・RIZIN JAPAN GP2021 バンタム級トーナメント優勝

地元へ凱旋

2月8日には、久慈商工会議所青年部主催の講演会に登場。市内外から訪れた約100人の前に、ベルトを掲げた久慈後援会の鹿糠智樹会長とともに扇久保さんが登場すると、会場から大きな拍手が送られました。

講演会では、久慈での思い出やプロデビューまでの道のりなどが語られました。プロデビュー20周年を迎える扇久保さんは、戦いへの原動力を聞かれると「若い頃から変わらない、強くなりたいという思いで戦ってきています。もう一つはサポートしてくれる家族や応援してくれる人たちの存在。勝ったときに喜んでくれる顔を見るのが本当にうれいので、そのために頑張っています」と語りました。令和6年からは久慈市でアマチュア修斗(総合格闘技)の大会「おぎちゃんフリーファイト」を開催しており「僕ができることは格闘技を通じて、久慈を盛り上げていくこと。若い選手が出

てきて盛り上がりつつあればいいと思っています」と将来を見据えました。

後半は、大みそかの試合映像を会場で観戦。戦い方やその時の考えを解説しながら激闘を振り返りました。講演後は写真撮影に応じ、応援してくれる人たちと交流を深めました。

地元への熱い思い

2月9日には市役所を訪問。子どもたちのために使ってほしいと、市に対して30万円の寄付をいただきました。

選手紹介で「岩手県久慈市出身」として紹介してもらえ、誇りに感じているという扇久保さん。今後について「40歳までは、選手を続けたいと思っています。いつか久慈で格闘技の大会を開き、自分がメインを務め、久慈市の皆さんに生で格闘技を見ていただくのが夢です。格闘技を通して、市を活性化していきます」と久慈市への思いと共に、意気込みを語りました。



1/講演会に駆けつけたファンと写真撮影 2/来場者の質問に、真剣にアドバイスを送る扇久保さん 3/久慈での思い出を笑顔で語る扇久保さんと久慈後援会の鹿糠会長 4/光り輝くフライ級のチャンピオンベルト 5/遠藤市長と記念撮影をする扇久保さん